

有機イチゴ栽培のための病虫害管理体系の確立

イチゴの有機栽培において紫外線（UVB）照射、種子繁殖型品種、天敵放飼、太陽熱土壤消毒等の病虫害防除技術を組み合わせた管理体系を確立しました。本体系の導入により、栽培期間を通して病虫害の発生や拡大を抑制することができ、安定的な有機イチゴ栽培が可能となります。

☆ 技術の概要

1. 本体系ではイチゴの生育ステージに応じて、有機栽培で使用可能な病虫害防除技術を組み合わせて病虫害対策を行います（図）。
2. 本体系の特徴は、化学合成農薬を一切使用せずに、多様な病虫害防除技術を活用し、病虫害発生の予防や早期の対応に重点を置いていることです。
3. 本体系を導入したイチゴ3品種の栽培試験（2025年、茨城県つくば市の中日本農業研究センター圃場）における収量は4.1～5.0 t/10aであり、慣行栽培のイチゴの全国平均収量3.3 t/10a（2024年農林水産省作物統計）を上回る収量を確保できました。



技術や資材	効果	防除の種類
① UVB照射	うどんこ病とハダニの予防	物理的
② 品種の選択	病害の予防	耕種的
③ 天敵放飼	微小害虫の予防および初期防除	生物的
④ 有機JAS規格で許容された農薬	病虫害の予防および初期防除	化学的 生物的
⑤ 防草シート、防虫シート・ネット	病虫害の侵入防止	耕種的 物理的
⑥ 定植苗の消毒	本圃への病虫害の持込み防止	物理的
⑦ 太陽熱土壤消毒	土壌伝染性病害の予防	物理的

図 使用する主な技術や資材

☆ 活用面での留意点

本体系について、各種の病虫害防除技術の概要や使用する時期・具体的な方法を取りまとめた標準作業手順書を農研機構のホームページで公開しています。なお、本体系は茨城県つくば市で実施したイチゴの土耕・促成栽培試験に基づくため、導入する地域や気候条件等に応じた検討が必要です。



標準作業手順書の詳細はこちら。無料の利用者登録が必要です。
(<https://sop.naro.go.jp/document/detail/215>)

(農研機構・中日本農業研究センター 須賀有子・石崎摩美)